



みんなで家庭教育！

家庭で伝える「性教育」



保護者のみなさん、お子さんと性について話をされていますか？「うちの子には、まだ早いわ。」「恥ずかしくて、何をどう伝えればいいか分からない。」…親世代は、積極的に性教育を受けてきたわけではないため、そんなふうに思われる方も多いかもしれません。「性教育＝男女の性器や性交の話」というイメージが強く、子どもに話をすることに抵抗がある方もいるでしょう。でも、今、子どもたちが学ぶ性教育は、それだけではないのです。

可児市子育てまなび講座では、11月に「命・性に関する講座」を開催しました。今年度は、感染防止対策として家庭教育学級生のみを対象としていますが、より多くの保護者の方に学んでほしい内容です。一部、ご紹介します。

《小・中学校の保護者向け「家庭で伝える性教育」

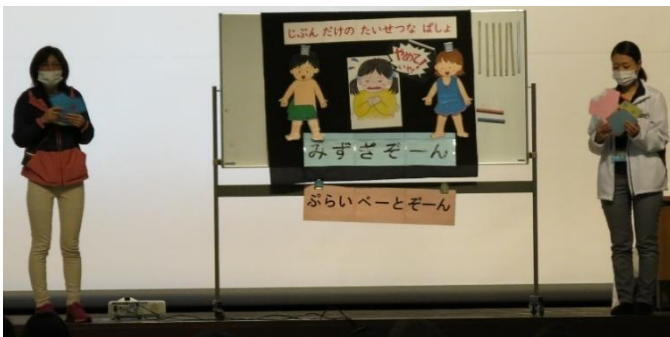
講師：可児市健康増進課 助産師 山本ちひろ》

- ・まず親の意識を変える。性＝いやらしいこと、恥ずかしいことではなく、性＝大切なこと。性教育とは＝いのち、体、健康について学び自分の性を大切にすること。性を人間関係の在り方として考えることができる。自己肯定感を育み、自分らしい生き方を考える。
- ・小学校低学年までの子どもは、体や命について素朴な疑問をもつ→大切なことを正しく伝えるチャンス！
「自分はどこから生まれたの？」「赤ちゃんはどうやってできるの？」正しい知識を子どもに分かりやすい言葉で伝える。一緒に性の絵本を読むのもおすすめ。
- ・親子の対話→気持ちをしっかり受け止める。「いつでも味方。話を聞くよ。」親にSOSが出せる関係を築く。
- ・予期せぬ妊娠や性暴力被害を防ぐためにも、どう行動するべきか考え、問題への対処行動ができるようにする。
- ・自分の性を大切に、「どんな自分でも自分には価値がある」という自己肯定感が持てるように。「あなたは大切な命」というメッセージを伝えていくことが、親が子にできる最も大切な性教育。

《幼・保育園の保護者向け「いのちのふれ愛教育」

講師：可児市子育て支援課 臨床心理士 鬼頭拡美》

- ・「1」の重み…性被害。自分の体を自分で守ることに、時期が早すぎるということはない。
- ・インターネットに情報が溢れている時代。正しいことを知っているから、間違っている情報に気がつく。我が子を被害者にも加害者にもしないために、親自身が正しい知識を知り、伝えることが大切。
- ・「赤ちゃんはどこから生まれてくるの？」→お父さんには、赤ちゃんのたね。お母さんには、赤ちゃんのたまご。お父さんとお母さんが愛し合って、いいタッチがあると、たねとたまごはドッキング。それが〇〇ちゃんだよ。はじめは針の穴くらいの小さいいのち。お母さんの体には、赤ちゃんの部屋があるから、そこで大事に大事に〇〇ちゃんを育てたんだよ。生まれてきてくれてありがとう。
- ・男の子は、赤ちゃんのたねを作るところ。女の子は、赤ちゃんのたまごと赤ちゃんのお部屋。いのちにつながる「自分だけの大切な場所」があるよ。他人に見せたり、無理やり触ったりするのは悪いタッチだよ。
- ・自分の体の大切さを知ることは、他人の体の大切さを知ること。いのちのバトンを繋ぐことを教える。

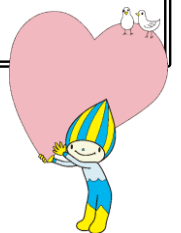


～「いのちのふれ愛教育」について～

令和2年6月政府は「性犯罪・性暴力対策の強化の方針」を決定しました。この方針をふまえ、全国の学校において「生命（いのち）の安全教育」の実施が推進されることになりました。可児市では、この取り組みに先駆けて、令和元年度から、市内の幼稚園保育園において主に年長児を対象に「いのちのふれ愛教育」を行っています。

《参加者の感想から》

- ・性教育は難しく感じていましたが、大切な事としてチャンスを見つけて話していきたいと思いました。
- ・赤ちゃんができて出産することは、奇跡の連続。我が子が生まれてきてくれた喜びを思い出しました。「あなたのことを愛しているよ」と伝え、自分を大切に、相手を思いやるように育てていけたらと思います。
- ・店のトイレなど、「もう大きいからいいだろう」と子どもだけで行かせていました。身近に危険があることを夫と話し合っておきたいです。人がいる方へ逃げる、大きな声を出すなど、具体的な方法を子どもに教えておきたいです。



《Q&A～こんな時、どうすればいいの?～山本助産師がお答えします》

Q. プライベートゾーンについて、子どもは理解しても、夫が「同性だから大丈夫」とふざけて息子の性器を触ってしまうことがあります。性教育を受けていない世代で、なかなか理解してもらえません。どう伝えたらよいでしょうか?



A. 性についてはいつでも学び直すことができます。性＝とても大切なことであること、子どものために一緒に考えてほしいことをあきらめずに伝えてみましょう。山本文子著「いのちの応援団」は性教育の大切さがわかるお勧めの本です。今後、男性も性教育講座を受けていただける機会を検討したいと思います。

Q. ひとり親なので、父親が性を教えるのが難しい状況です。どのようなアドバイスがよいでしょうか? / 自分が女性なので、男性の体の仕組みや、男の子に対する性の伝え方を知りたいです。

A. 子どものおじさん、おばさん等同性の親戚の方、同性の先生など、身近に見える信頼できる大人に協力してもらいましょう。思春期の子どもには、できれば同性の大人から体の仕組みや性のことを伝えると伝わりやすいです。異性の子どもについては、下記の本やwebサイトをぜひ参考になさってください。

Q. 赤ちゃんができる事を聞かれた時、動物の交尾を例に挙げて伝えてもよいものでしょうか?

A. 親とのつながりを確かめたくて聞いてくるお子さんもいます。動物ではなく「お父さん、お母さん」の話をしてあげていただければと思います。「いのちのふれ愛教育」の伝え方(表面)をぜひ参考になさってください。

Q. 家庭以外で、子どもはどこで性を学べますか?

A. 可児市内の幼稚園保育園では、全ての年長児を対象に「いのちのふれ愛教育」を行っています。小学1年生からは、各学年に応じた内容で性に関する学習(学活や保健の授業など)を行います。先述(表面)の「生命(いのち)の安全教育」については、文部科学省のHPで詳しく知ることができます。インターネットによって多くの情報が簡単に手に入ります。正しい情報を得られるwebサイトを利用して学ぶこともできます。

《親子で読みたい性教育の本・性について学べるwebサイト》

- ・「いいタッチわるいタッチ だいじょうぶの絵本」 安藤由紀〔著〕 復刊ドットコム
- ・「とにかくさげんでにげるんだ わるい人から身をまもる本」 ベティー・ボガホルド〔作〕 安藤由紀〔訳〕 岩崎書店
- ・「性の絵本」 全5冊 山本直英・高柳美知子・安達倭雅子〔文〕 木原千春〔画〕 大月書店
- ・「赤ちゃんはどこからくるの? 親子で学ぶはじめての性教育」 のじまなみ〔著〕 幻冬舎
- ・「知ってる? 女の子のカラダ ポップコーン天使」 手丸かのか〔漫画〕 山本直英〔監修・解説〕 子どもの未来社
- ・「知ってる? おちんちんのフシギ おれたちロケット少年」 手丸かのか〔漫画〕 金子由美子〔解説・Q&A〕 子どもの未来社
- ・「あっ! そうなんだ! 性と生」 浅井春夫・安達倭雅子・北山ひと美・中野久恵・星野恵〔編著〕 エイデル研究所
- ・中高生向け 性教育のwebサイト「セイシル」
- ・性教育YouTuber シオリー又(助産師 大貫詩織さんの動画)



～家庭教育学級で一緒に学びましょう～

市内13か所の地区センターで行われている乳幼児学級、14園の幼稚園・保育園と16校の小学校・中学校で行われている家庭教育学級では、今年度もたくさんの活動が行われています。コロナ禍で、従来のペースで集まることは難しい状況ですが、在宅取組型を取り入れたり、感染防止対策を万全にして講座を開いたりして、子育てについて学んでいます。「コロナで他のお母さんと話す機会が少なかったから嬉しい。」「貴重な体験ができてリフレッシュできた。」と笑顔で帰る学級生の姿が印象的です。子育てをしていると、子どもの成長に合わせて、悩みも変わっていきますよね。子どもと向き合う時間は待たなしです。イライラしたり不安になったりするのも当たり前。同じ年頃の子をもつ親同士で交流したり、新たな知識を学んだりして、楽しく子育てをするヒントを得る場が、家庭教育学級です。子育てに奮闘する保護者のみなさんを、可児市はサポートしています。子どもと一緒に親として成長しましょう。「子育ては親育ち!」



「万が一の時のための幼児救命法」



「体を動かして心もすっきり♪」



「高校見学会で最新の情報を」

R4年度の学級生募集は、新年度に入ると始まります。園・学校からのお便りをお待ちください。乳幼児学級は2月から各地区センターで申し込めます。お問い合わせは子育て支援課まで、お気軽にどうぞ。



可児市役所 子育て支援課 子育て応援係 脇田 知里
 電話：62-1111(内線 5545) FAX：66-1005
 E-mail: kosodate@city.kani.lg.jp